

日本放射線看護学会誌第5巻発行にあたって

——ともに歩んだ5年間の軌跡——

On publication of Volume 5 of the Journal of Radiological Nursing Society of Japan: The trace which we walked together for five years

西沢 義子

Yoshiko NISHIZAWA

弘前大学大学院保健学研究科

Hirosaki University Graduate School of Health Sciences

日本放射線看護学会が設立され5年が経過し、学会誌発行は5回目を迎えました。人間で言えば幼児期から学童期に入る頃でしょうか。ようやく周囲にも目を向けながら少しずつ進んでいけるようになった頃であると感じています。

5年目の節目にあたり、学会設立と学会誌発行までの経緯を思い返してみました。学会設立の契機は、平成22年度に長崎大学大学院医歯薬学総合研究科修士課程に放射線看護専門看護師コースが開設されたこと、また同年には弘前大学大学院博士前期課程に被ばく医療コースが設置され、放射線に強い看護職を養成する教育が始まったことでした。放射線看護は重要であると認識されながらも、看護基礎教育は過密カリキュラムでもあり、また、保健師助産師看護師養成所指定規則にも「放射線看護」の教育内容に関しては明瞭に記載されていませんでした。そのため、これを補完するために大学院教育で行おうとする試みは当時としてはとても挑戦的なことでした。しかし、教育が開始され1年目が過ぎようとした頃に福島第一原子力発電所事故が発生しました。すでに教育を受けていた長崎大学、弘前大学に在籍中の大学院生が現場に派遣され、学んだ専門的知識と技術を活用し住民への対応にあたりました。教育側が期待した以上に大きな活躍を見せてくれました。その後、平成24年度には鹿児島大学大学院博士前期課程で放射線看護専門コースが開設されました。全国で三大学だけですが、放射線看護の専門的な教育を開始してから今年度で7年目になりました。この間に、平成27年度から高度実践看護師教育課程を想定した教育も始まりました。開設から平成29年3月で、修了生は合計19名になります。

大学院修士レベルで放射線看護の専門的な教育を行っているのは北日本と九州地区という距離的（直線距離で約1,400 km）にもかなりのハンディがありましたが、関係者は平成23年度から度々会議を開催して参りました。このような専門的な教育を受けた修了生に対して公に認められた資格付与について検討し、これまでなかった専門看護師「放射線看護」分野を特定するための活動を開始しました。日本放射線看護学会誌が発行される約2年前のことでした。

新しい分野を特定するためにはどのようにすればよいのかもわからないまま、日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会（当時の名称）に相談に参りました。その際に専門看護師の活動には学術的基盤が必須であること、また看護専門の学会であることのご助言をいただきました。当時、医学系の放射線関連学会はありましたが、看護専門の学会はありませんでした。「放射線看護」分野を特定するためには、看護専門の学

会を設立するしかないと考え、三大学関係者は学会設立の決意をしました。

学会はどのようにして設立するのかもわからず、一つひとつ諸先輩にご教示いただきながら情報収集するという連続でした。学会設立の準備と学術集会の開催を決定したのは、平成24年5月でした。学会設立総会・第1回学術集会開催まで半年しかないという非常に厳しい計画でしたが、「放射線看護」分野を特定し、修生に資格付与したいという三大学関係者の強い思いからでした。第1回学術集会は弘前大学で開催させていただきましたが、演題数は口演8題、示説6題の合計14題、参加者250名という大変小規模な学術集会でした。しかし、参加者ならびに関係者にとっては長く待ち望んだ学会の設立でした。翌年3月には日本放射線看護学会誌第1巻が発行されました。当時の編集委員長は鹿児島大学の松成裕子先生でした。この当時は学会設立に関与した関係者が役割分担し、一つずつ手づくりで進めたことが強く印象に残っています。編集委員長は、その後鹿児島大学の八代利香先生に交代となり、着実に発行を継続しています。その成果が認められ、平成25年11月には日本看護系学会協議会に第42番目の学会として入会することができました。すなわち、学会誌の継続的発行が評価されたこととなります。

この5年間は「放射線看護」分野特定のために奔走したと言っても過言ではありません。正式には平成28年6月20日の日本看護系大学協議会総会において「放射線看護」分野が特定されたことについての報告がありました。長い、長い道のりでしたが、この間に看護学はじめ医学関連学会の多くの方々からの心温まるご支援を賜ることができました。この活動を通して、放射線看護の発展を願っているの方々が多いことを知ることができました。

平成28年7月に、三大学は放射線看護専攻教育課程を申請しました。学会誌第5巻が発行される頃には三大学の教育課程がともに承認され、平成29年4月から本格的に放射線看護専門看護師の教育がスタートする運びになることを確信しています。すなわち、この5年間は学会設立、学会誌発行、専門看護師教育課程に向けてともに歩んだ貴重な歳月でした。

放射線看護分野の特定に向けた活動を通して、微力ながらも継続することの大切さを実感しています。まだまだ未熟な学会ですが、放射線看護分野における知の実績を積み、近い将来には世界に誇れる日本放射線看護学会になれるように皆で頑張ってください。そのためには日本放射線看護学会誌の継続的な発行がとても重要であります。個々の会員がこの学会の発展と継続的な学会誌発行のための重要な役割を担っています。また、5年が経過した現在では「放射線看護」の枠組を再確認する時期に直面しているかもしれません。会員の皆様におかれましては忌憚のないご意見をどしどしお寄せいただき、皆で日本放射線看護学会を発展させて参りましょう。